

第30回

地域おこし協力隊が行く！

実は隣のスゴイ人

曾於市内のスゴイ人にスゴイ人を紹介してもらうこのコーナー。前回のスゴイ人、橋本絹代さんにご紹介いただいたこの方は、「曾於市に移住されて以来特産品を数々世に出しているスゴイ人」とのこと。インタビュアーは、平澤津あやでお届けします。

【今回のスゴイ人】
児玉 光弘 さん

今回、お話を伺ったのは大隅町月野にお住まいの児玉さん。山口県で生まれ育ち、大阪に就職。食肉やハム・ソーセージなど加工を行う大手企業で、営業や開発として、全国を渡り歩いていたそう。いずれは自分で起業したいと考えていた児玉さんは、49歳の時に早期退職。仕事で以前から曾於市に何度も訪れていた児玉さんは、多くの人との縁もあり、曾於市に18年前移住しました。

移住後、当時としては珍しかったファブレス（工場を持たず、商品開発と販売に特化する）会社として「アグリおおすみ」を設立しました。曾於市の特産品である芋を使って商品を作ってほしいという依頼から生まれた「皮付きスイートポテト」のほか、ジンジャーシロップや肉まんなど様々な商品を開発。今では30品ほどを扱っているそう。

「地域の産物をいかに商品にするか。安心・安全・健康の付加価値をつけ、オンラインワンを目指している」という児玉さん。営業時代に培ったノウハウと人脈で、現在も日本のみならず世界中を飛び回っています！

お話の中で印象的だったのは「縁を繋ぎ、縁にのっていくといいよ」という言葉。私も曾於市に移住してもらうすぐ3年。この街で本当に色んな「縁」に恵まれてきました。私も曾於市でできた縁を繋げていける人になりたいと思います。移住の先輩として学ぶことがとても多い取材でした。



協力隊の活動報告

30年度最後の仕事として、おおすみ弥五郎の里であった桜まつりで出店してきました。縁あって都城のよろい寿司さんと一緒に開発した「よろい寿司のだし巻たまごサンド」とSOOTシャツやポストカードなどを販売。なんとたまごサンドはお昼過ぎに完売！協力隊商品もたくさん売れました！色んな所でSOOTシャツを着てくれている人がいて嬉しい限りです。みんなで曾於市を盛り上げていきましょう！

三浦が卒業し、協力隊1人となりました……寂しい（三浦も曾於市にいるけどな！笑）。私も職場が変わり新しいスタートを迎えました。今後、より一層協力隊を応援していただきますようよろしくお願いいたします！！

寂しがり屋の平澤津より



2019年3月31日

平澤津あや